

かつての練馬区域は、茅葺き屋根の農家が点在する、江戸、東京の近郊農村でした。

旧内田家住宅は、明治20年代初めに練馬区中村に建てられた民家です。部材の一部には、江戸時代の古材も使われています。

平成19(2007)年に建物をいったん部材ごとに解体し、必要な調査を行った後、練馬区立石神井公園ふるさと文化館の屋外展示施設として、平成22(2010)年に区立池淵史跡公園へ移築復元しました。

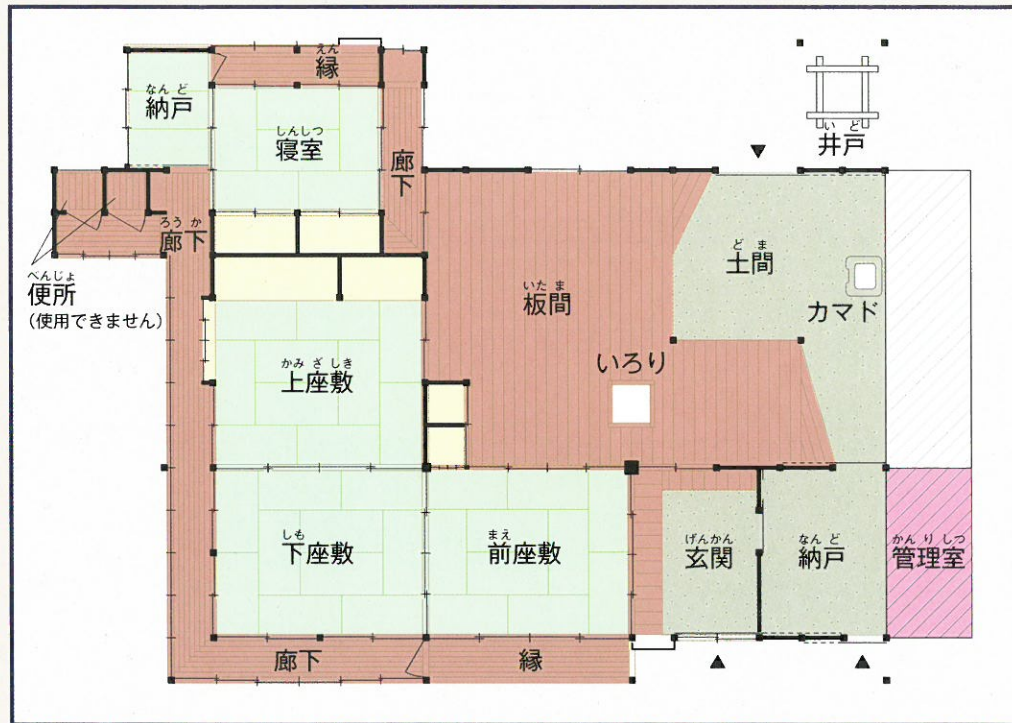


木組み

移築の様子



茅葺き作業



明治から昭和、平成にかけての生活空間の変化

時代や生活の変化に応じて間取りを変えたり改築しながら、約120年の間、伝えられてきました。昭和戦前期の姿に復元を行いました。

繊細なつくりの座敷と、梁組みが見える土間・板間が対比的で魅力ある空間となっています。



創建時(明治20年代)



昭和戦前期



解体時(平成19年)

建築年代 明治20年代初め 構造形式 茅葺き寄棟造り(平入り)

間取り 整形四間取りの主体部とその北西に張り出す角屋からなる

桁行 15.3メートル 梁間 10.9メートル (管理室等をのぞく)

角屋部 桁行 4.4メートル 梁間 6.4メートル